

## 令和3年度 学校総合評価

### 1 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の達成目標に対する評価は、A（達成した）が3項目、B（ほぼ達成した）が1項目あったものの、D（目標の達成に至らなかった）が3項目、C（現状維持）が3項目となった。D及びCの評価に該当した重点目標に対しては、学校評議員から、コロナ禍が続くことも想定してアクションプランを変更することが必要ではないかという意見も多くあり、具体的な取り組みに対して検証を行って判断する必要があるとの指摘をいただいた。

来年度は、学校評議員からの指摘を鑑み、重点課題そのものと適切な達成目標値の検討を行い、重点項目によっては見直すことも必要と考える。

各アクションプランの詳細は、様式5に記載してあるとおりであるが、重点目標を概観すると以下の通りである。

① 授業力の向上を重点項目として、今年度は「互見授業の実施及び参観」についての目標を設定したが、目標達成には至らなかった。コロナ禍で今後もこの状態が続いていくことが予想されるため、学校生活もそれに合わせて行かなければならず、アクションプランも例年通りではなく、変えていく必要があると、学校評議員の方からの指摘があった。

コロナ禍において、今後とも学習意欲に欠ける生徒の意欲を喚起するような授業の工夫を行い、ICT端末を活用した新たな授業展開を行うなど、学校全体で組織的に取り組んでいきたい。

② 昨年度と同様「遅刻回数の減少（対昨年）」、「普段の生活の見直しを考えた生徒の割合」を目標として設定した。特に「遅刻回数の減少（対昨年）」という課題設定は、遅刻減少への強い意識の表れであり、年度当初から学年毎の指導を強化するなどの手立ては講じたものの、目標には及ばなかった。遅刻者については、個人の意識の問題であり、今後とも個別に家庭との連携を図りながら粘り強い指導を心がけていきたい。学校評議員からは、時間を厳守し学校生活を送るということは、社会生活においても必要なことと考えられるため、引き続き時間を守る重要性について指導を徹底してほしいと指摘された。

近年、スマートフォンの依存症が問題視され、日常生活において睡眠不足や昼夜逆転に陥る者も増加している。そこで今年度は、臨時休校が明けて「朝食」と「規則正しい生活」についての生活改善を考えるという課題を設定した。方策としては、それぞれの生徒の実態を把握するためのアンケートを実施した。良質な睡眠に向けての生活改善についての結果については、達成目標より下回ったが、来年度も引き続きコロナ禍が続くことが予想されるため、達成目標について、生徒の実態を正しく分析・判断し、さらに具体的な取り組みについて検討していきたい。

③ 今年度も、生徒の進路意識を高める手立てとしてキャリア教育に一層力を入れることを鑑み、「進路ガイダンスやオープンキャンパス等に自主的に2回以上参加する生徒の割合」を目標として設定した。今年度は、コロナ禍により外部講師招聘や校外でのガイダンスや説明会への参加が困難

となり、インターンシップについても取り止めとなった。また2学年による夏期の進路探訪についても中止となった。しかし、その中で、少人数での希望者に限った講演や校内での説明会を実施することができた。3年生の就職希望者については、例年とほぼ変わらない数の応募前企業見学を実施することができたが、現地での見学が許可されず、DVDやオンラインによる案内にとどまる企業もあった。

来年度へ向けて、生徒一人ひとりの志望やニーズに合った情報をどのように伝えることができるのか、生徒の進路実現に向け、再検討していきたい。

また、読書によりさまざまな生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につなげるための進路支援を行うため、今年度は「自分の生き方に影響を与えた本がある生徒の割合」や「ブックスニュースの中に読みたい本があった生徒の割合」についての目標を設定した。コロナ禍において生徒に本に親しんでもらうため、POP作りに力を入れて取り組んだ。これについては新聞紙上でも大きく紹介された。アンケート結果より、自分の生き方に影響を与えた本がある生徒の割合については、概ね目標を達成することができた。今後とも1、2年生には、長期休業中の読書課題に際し、自分の進路についても考えさせるための図書を選ぶように指導するとともに、またブックスニュースでは、特に3年生を意識して、本校生徒が進学を希望する大学や各種専門学校等において出題された小論文や面接等の過去問題の出典図書を紹介するなど、さらに充実した進路支援に取り組んでいきたい。

④ 今年度は、昨年度と同様「部活動個人達成目標が達成できた生徒」とした。年度当初に部活動の個人目標カードを記入させ、年度末に目標達成度を自己評価させた。結果としては、目標数値を超え達成しており、昨年度と比較して6ポイントほど向上している。それぞれの目標に応じて意欲的に活動していると評価したい。

ボランティア活動では、生徒会を中心に、校内清掃ボランティアを夏季と冬季の2回実施した。特に1回目(夏季)においては、160名もの生徒が参加し、校内の窓拭き、草むしり、学校周辺のゴミ拾いなどを行った。また、家庭クラブでは、手作りマスクを作成し、地域の児童館に寄贈して大いに感謝された。本校生徒が地域社会にも貢献したと言える。

⑤ 今年度はコロナ禍で、PTAに関わる会合や活動を十分に実施できなかったが、ホームページに学校行事の記事など機会を捉えて多く掲載するなど、情報発信に力を入れて取り組んだ。ホームページの更新も目標値を大きく上回り、これについては十分に評価できる結果だったと言える。

今後ともPTA会長の牽引力と役員の皆様の理解と協力によりPTA活動がより活性化し、充実した活動となるよう推進していきたい。

学校評議員の皆様には学校の状況も十分に理解していただいております。年度末の学校評議員会においては、新型コロナウイルス感染症の影響は今後も続くと思われるため、アクションプランの内容も変えていく必要がある。家庭や地域との連携をさらに強化し、本校の教育活動を、より実りあるものにしてもらいたい。今後とも保護者、地域社会、中学校(生徒も含む)が本校を求めているものを把握し、本校の特色を生かすようさらに検討してもらいたい。といった貴重な示唆提言いただいた。次年度のアクションプランの作成に生かし、より生き生きと学校生活を送り、地域に認められる生徒の育成にあたらねばならないと考えている。

## 2 次年度へ向けての課題と方策

次年度に向けての具体的な課題と方策については、各アクションプランに記載されているとおりである。今年度、新たな目標設定を行った5つの目標については、目標値、具体的方策等において見通しが甘い点も見受けられた。次年度へ向けて再検討し、適切なものに改めていきたい。

「A」と評価された項目では、より高い目標を設定し保護者との一層の連携のもとで、教職員一体となって取り組み、生徒の健全な育成にむけて取り組んでいきたい。